

令和6年度訪問看護病院経営者（看護管理者）講習会 アンケート結果

- 参加者 33 名（看護職 29 名、事務職等 4 名）
- 回答者 19 名（看護職 17 名、事務職等 2 名） 回収率 57.6%

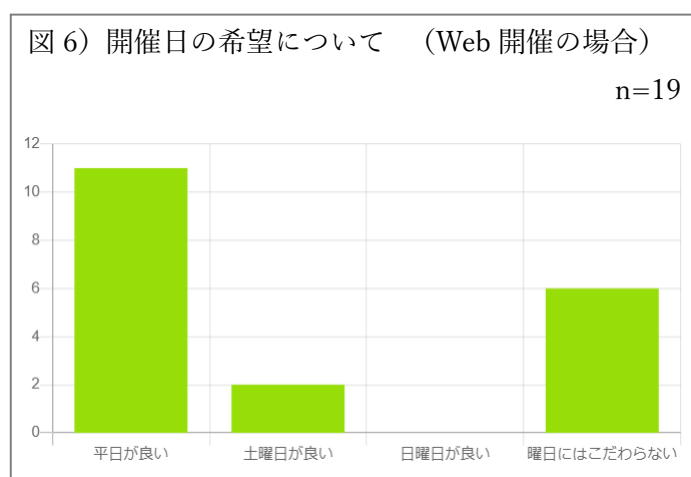
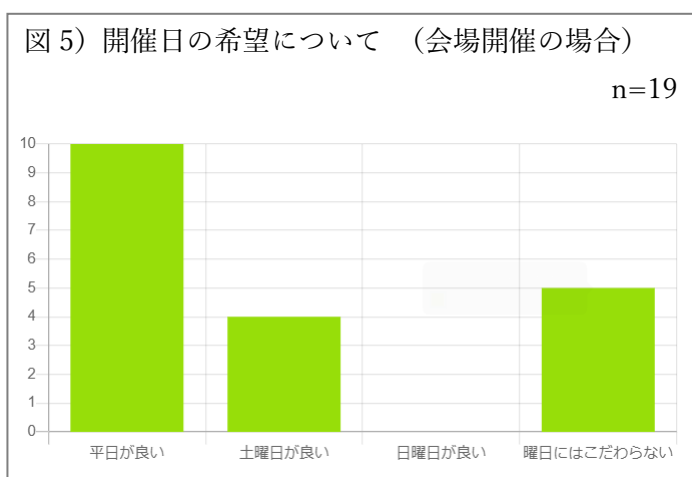
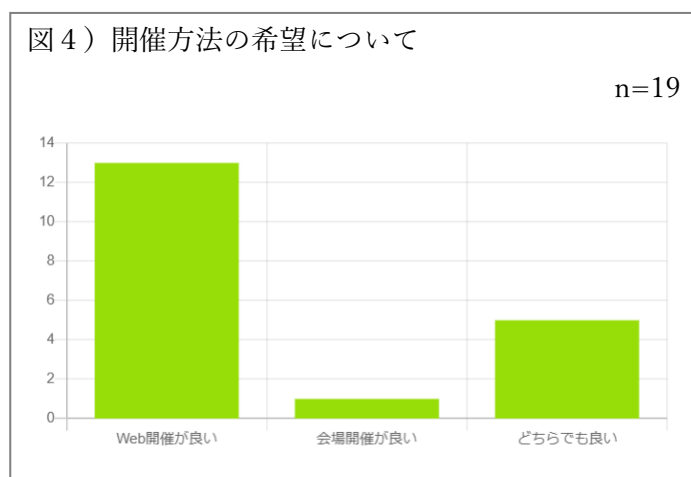
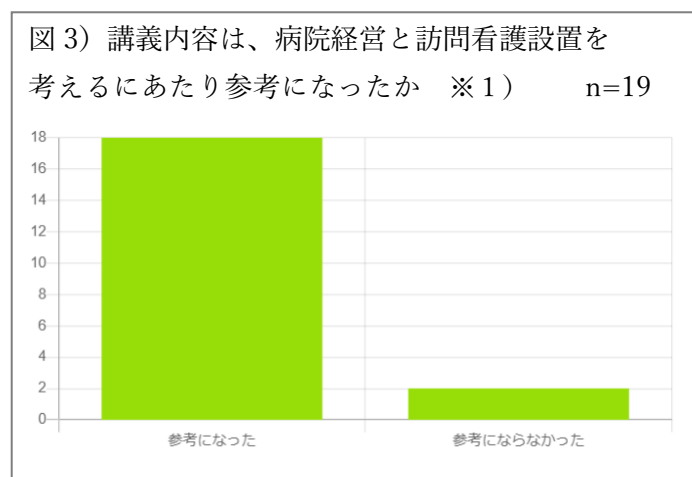
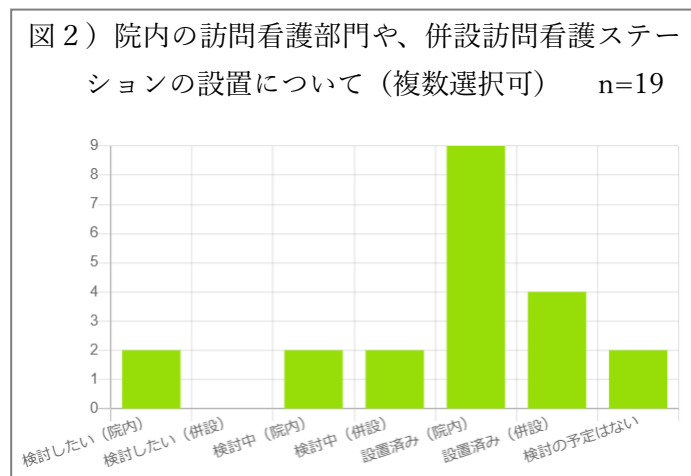
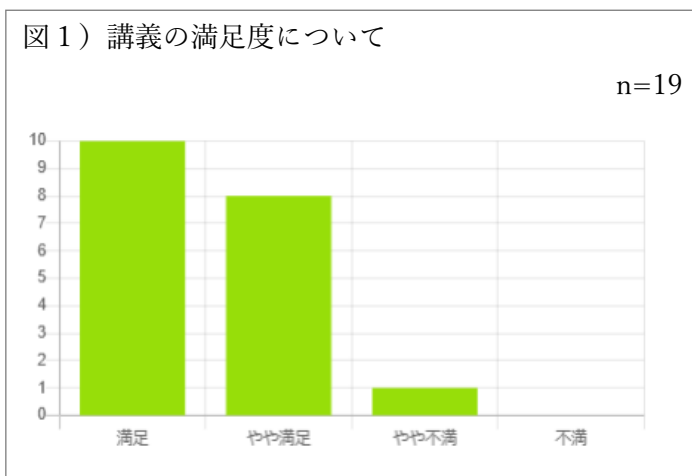


図3の※1) 参考になった内容等について（自由記載）

- 具体的な目標や訪看継続に必要な要素がわかった。
- 経営方針をどのように考えていったらよいか、参考になった。
- 事業の安定的継続視点での、望ましい人員配置、1人当たりの訪問件数、効率化すべき事、職員モチベーションを上げる為の処遇、注意すべき点、考慮すべき点、等分かり易く非常に参考

になった。

- 訪問看護の現状が理解できた。協会長の「病院で在院日数短縮～地域へのつなぎ方について」の話がとても参考になった。
- 現在訪問看護ステーションで働いているが、現在のやり方で大丈夫だと再認識できて良かった。大規模化を目指すにはどうしたら良いのか、オンコールの負担について等、併設している病院側の立場の方が本日の話を聞き改善に向けて考えていただけたら幸いと感じた。
- 併設訪問看護ステーションの管理や経営について、協力する点がわかった。
- 今回の報酬改定で併設訪問看護ステーションの訪問件数が加算対象となり、訪問件数を増やすこととなったが、地域の病院やクリニック、ケアマネ等への営業をしなければ厳しいことがよく分かった。
- ステーション化を検討しており、24時間365日のオンコール体制、手当の問題など、とても参考になった。
- 当院は訪問リハを実践しているが、講演内容を振り返り、長期計画として訪問看護ステーション化することを検討したい。
- みなしの強みを生かし継続していきたいと考え、書類や届け出などの運営について学びたく参加したが、病院の利益を考えるとステーション化や訪問診療に力を入れるべきとの方向性が見えた。
- みなし訪問看護での報酬面や人員配置について参考となった。指示書や記録の実際も知ることができた。地域医療のため訪問看護の運営を検討していたが、医師や看護師の深刻な人員不足と、そこに勤務する職員の高齢化も問題であり今回の研修資料の「標準的スケジュール」を参考とさせていただき検討したいと思った。
- みなし訪問看護と、ステーションとの診療報酬の差がある。当院の規模を考えると、ステーション化するより、地域のステーションと連携する事にメリットがありそうと感じた。
- みなし訪問看護の件数の増やし方や経営についてよく理解できた。参考にしたい。
- みなし訪問看護の現状を知ることができた。

今後本講習会で取り入れてほしい内容について

- コンサルタントを雇うことは難しく講習会等でなければ経営面の内訳がわからないので、定期的に開催してほしい
- 院内みなし訪問看護の立ち上げ事例
- ほかのステーションの状況も知りたい
- 訪問看護の質の評価方法を学びたい
- 特定行為研修修了者の在宅での活動について
- 入院患者の在院日数減や在宅ケアへの連携
- 回復期リハの退院後訪問看護などの実際など
- がん治療など医療的訪問看護についての詳細
- 在宅診療に関するもの
- 訪問診療とみなしの訪問看護の組み合わせで病院経営に協力できるよう、訪問診療等の運営などについて知りたい